

【目次】

1. アーカイブ No.11

連載「日本労働会館物語」第 8 回 2010.04.28 発行の第 9 号に掲載

2. (一般財団法人) 日本労働会館 2023 年度 第 2 回理事会を開催

3. UA ゼンセン流通部門・DCN ユニオン・執行委員会 40 名が来館見学

4. 年末年始休館のお知らせ(2023.12.28～2024.01.08)

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.11

連載「日本労働会館物語」第 8 回 2010.04.28 発行の第 9 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 8 回

<ナップの来日とユニテリアン・ミッションーその1>

前回までユニテリアンやユニテリアン主義について、また彼らを日本に招聘しようとした矢野文雄や金子堅太郎について簡単にまとめました。今回は米国ユニテリアン協会(AUA)の宣教師アーサー・メイ・ナップの来日と、ユニテリアン・ミッションについて記述します。

明治 20(1887)年 9 月、日本の政府要人(森有礼、金子堅太郎ら)らの宣教師派遣要請を受けたAUAは、「日本の宗教事情を調査するため」にナップ(1841～1921)の派遣を決定します。

ナップは 1841 年にマサチューセッツ州で生まれ、1860 年にハーバード大学を卒業。兵役を終えた後、ハーバード神学校に入学しています。1867 年に卒業した後は、幾つかの州で牧師を務めています。彼は「親しみやすく気さくな人柄で、思想的には進歩的、社交的で明朗闊達な人」だったようで、とても人気があったとされています。

彼が日本への派遣者に選ばれたのは、「18 年間にわたり牧師職にあり、牧師として優れていた」こと、また当時、ナップは一年間の休暇を取り、欧米各地を旅していた「フリーの身であった」からのようです。

日本行きが決まったナップはこの頃、ボストンで偶然に福澤諭吉の長男一太郎と知り合います。一太郎は彼の家に2か月間滞在し、日本の事情を説明。また、父福澤諭吉に手紙を送ってナップを紹介し、彼が日本に行く目的を知らせています。

こうして準備が整ったナップは明治 20 年 12 月に家族と共に来日し、福沢諭吉・徳川義礼・金子堅太郎・佐野常民・黒田長成・フェノロサ(美術研究家)らの支援を受けながら日本でのユニテリアン・ミッションをスタートさせます。「ナップが日本に来た目的は改宗者を作ることではなく、自由主義運動を広めるため」でしたから、彼は多くの人々に歓迎されました。ナップの活動について『日本ゆにてりあん弘道会第1回年報』(明治 25 年)は、次のように記述しています。

「アーサー・メイ・ナップ氏は直ちに居を東京にトシ、在京の貴顕、或は学士、或は紳士の間に往来し、日本人の特性及び人情風俗等を学び、大に発明する處あり、次で交詢社を始めとし、大日本教育会に、英吉利法律学校に、慶應義塾等に於て、氏が日本に使命せし所以を伝え、所々に数十回の演説をなし、其他此の教義に関する数巻の小冊子を刊行し、以て其教旨を世に公にせり、如此ナップ氏は、孜々勉勵せし結果として、我が国に渡来後、僅かに一ヶ年を過ぎるに、已に四百余名の賛成者を各地方に得、今其名簿を閲するに、或は国家枢要の地位に居る貴顕あり、或は教育の大家あり、軍人あり、紳商あり、豪農あり、銀行員あり、教員あり、書生あり、其学識其地位に於ては、何れも中分以上の人士を以て、其多数を占めたるが如し」

以上の記述からナップと彼が持ち込んだユニテリアン教は、「正統派キリスト教の非合理的な説や超自然的な主張に失望」していた当時の知識階級、上流階級に歓迎され、受け入れられたことが伺えます。これはユニテリアン教が進化論を認める合理性を持ち、キリスト教の教条に批判的で、日本の文化や宗教に理解を示す「自由と寛容」さを持っていたからでしょう。

参考書籍：『ユニテリアンと福沢諭吉』・土屋博政、慶大「日吉紀要」「アーサー・メイ・ナップと日本ユニテリアン・ミッションの始まり」・土屋博政、『リベラル派の先駆者たち』（米国ユニテリアン教会）、他

2. 2023 年度 第 2 回 理事会が 11 月 21 日(火)友愛会館会議室にて開催

理事会の冒頭、議長である宮本代表理事の挨拶で始まりました。

＜報告事項と議案＞

代表理事の挨拶を受けて、各担当から 2022 年度の①友愛労働歴史館事業(藤吉友愛労働歴史館館長)、②労使関係研究協会事業(滑川労使研事務局長)、③宿泊事業(菊池総務部長)の報告がされた。その後、滑川常務理事から 2023 年度中間決算について説明された。

なお、次の議案を採択しました。

第 1 号議案 2023 年度 中間決算について

3. UA ゼンセン流通部門・DCN ユニオン・執行委員会 40 名が来館見学

11 月 27 日(月) UA ゼンセン・流通部門の DCN ユニオンの執行委員会メンバー 40 名が来館、常設展「日本労働運動の 100 年余」を見学。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聞きながら、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。展示室の見学の後、日本労働遺

産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学し、記念撮影を行った。皆さんとっても熱心に受講し見学をしていました。

4.お知らせ

①友愛労働歴史館の年末年始の臨時休館日

年末年始の1/4(木)と1/5(金)、臨時休館とします。

2023年12月28日(水)～2023年1月8日(月)の間、友愛労働歴史館は休館とします。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuirodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuirodorekishikan.com>

-----惟一館から129年、友愛会から111年-----